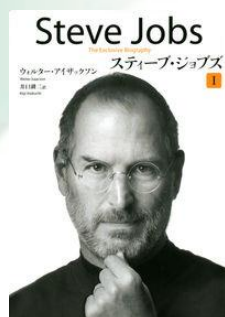


今回のテーマは「それぞれの人生を生きる」

人は生まれる条件は選べない。生まれた結果として、人生がある。どう生きるか、どう生きたか。語られるそれぞれの人生から刺激を受けることや学べることがある。それぞれの人生に触れてみてください。



スティーブ・ジョブズ I・II

ウォルター・アイザックソン／著 井口耕二／訳

講談社

スティーブ・ジョブズのことをご存じの方は多いだろう。世界的企業アップルの生みの親です。携帯電話やスマートフォンが日常の当たり前になってきている現在、改めてその歴史に触れてみてはどうでしょうか。この書は、スティーブ・ジョブズの生い立ちから会社が生み出される経緯、その人間模様が詳細に書かれています。彼の生まれ、そして養子としての生活、人との出会いと葛藤、禅との出会いなど私生活もていねいに書かれています。もちろん、自分がつくった会社を追放され、再び会社に迎え入れられたのは、なぜなのか。ビル・ゲイツとの関わりなどについても詳細に書かれています。会社が大きく伸びるきっかけ、シンク・ディファレントとは、どういうことなのか。決して特別なことではなくそこにある出会いの中で、自分なりに前向きに生きた人生が見えてくる書だと思えます。



「昭和天皇実録」の謎を解く

半藤一利／著 保阪正康／著 御厨貴／著 磯田道史／著

文藝春秋

昭和も過去の歴史になりつつあります。昭和の時代を生きてきた人間としては、ちょっと気になり始めました。人々がどう生きてきたかに思いをめぐらしますが、昭和天皇も時代の中で生きてきた姿が見えます。昭和天皇の生まれから、激動の昭和をどのように生きたか、実録をもとに語ります。昭和天皇は軍人として育てられたことが記されています。第一次世界大戦の激戦地を訪問し、戦争の悲惨さを学んでいます。25歳で天皇に即位。その後、張作霖爆殺事件、五・一五事件そして二・二六事件など戦争につながるいくつもの事件が起こります。もちろん、戦争に至る過程、大戦中、敗戦後の時の様子も書かれています。また、兄弟、他の宮様との意見の違いも見え隠れします。その時、どう考え、葛藤をしてきたのかが多くの記録からうかがえます。昭和天皇も人として生きてきた、と思う記録が残されています。